

平成23年4月30日（土）

第414回 史跡めぐり（市内半日）

**案外知らなかった越谷を歩く  
「元荒川の流れたあとをたどり、スナッカラ地蔵へ」**

越ヶ谷の久伊豆神社の前を流れる元荒川は、昔は花田苑の先まで流れて戻っていた。

見えないものが見られるミステリーツアーです。

花田の周りを流れていた元荒川の川筋跡をたどり、川筋にあったスナッカラ地蔵などを見学します。

案内者 副会長 加藤幸一

日時と集合 4月23日(土) 9時・東武線北越谷駅東口

コース(6.6キロメートル) ※雨天のため4月30日(土)に実施

北越谷駅そばの貨車の工場跡地

日光街道筋の「天神前橋」跡地

大沢七つ池(内池)

大沢の砂丘跡地

地藏橋そばの地藏堂のいわれ

花田の周りを流れていた古川(旧・元荒川)の入口

古川(裏古川)跡をたどる

(花田第二公園・トイレ1カ所)

スナッカラ地藏(かつての場所)

(公衆トイレ)

スナッカラ地藏(現在の場所)

本来の城之上橋(俗称「鷹匠橋」)跡地と鷹匠

古川(表古川)跡をたどる

伝説「上屋敷」跡地

越谷市立図書館(トイレ休憩)

古川の元荒川流入口

旧・宮前橋(寺橋の由来) 【12時、解散】



北越谷駅（明治32年に越ヶ谷停車場、大正8年から武州大沢駅、昭和31年から北越谷駅）

昭和35年当時



茶畑  
日光街道沿いに、茨急の茶畑入口バス停があるが、そこから北越谷駅東口郵便局南側を通り、足立越谷線を横断し、逆さ川まで通じる道を「茶畑通り」と呼ばれ、逆さ川に近い「茶畑通り」の両側には茶畑が見られていた。

北越谷駅

(木造貨車の板を取り替えた)

戦後

高崎力氏による

大井大氏経営の貨車の工場跡

日光街道(越ヶ谷宿大沢町)

天神前橋

砂丘

大沢2丁目

内池

(大沢公民館・第二体育館)

市立第一体育館

市立大沢小学校

大沢の砂丘

(高崎力氏による)

外池

八郎兵衛池

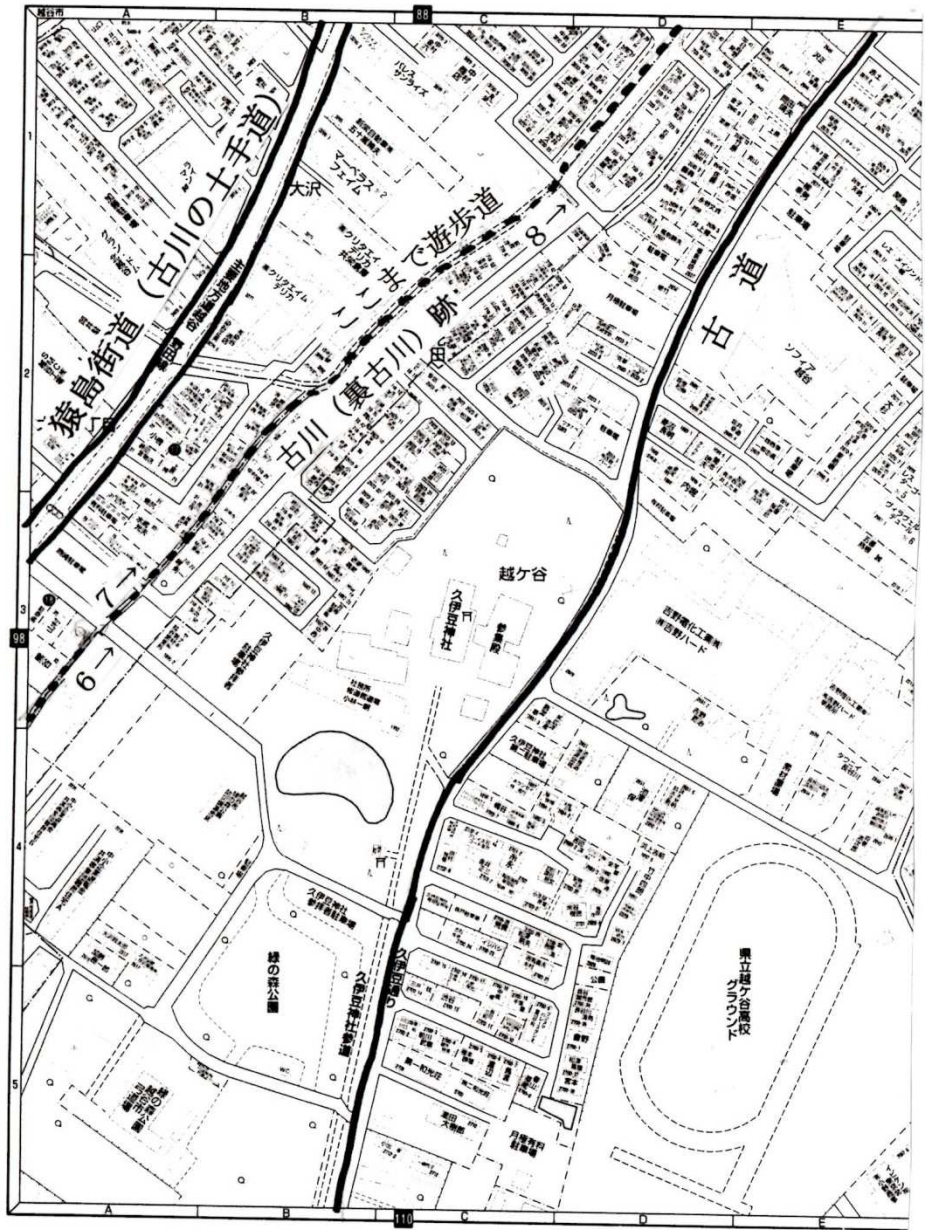
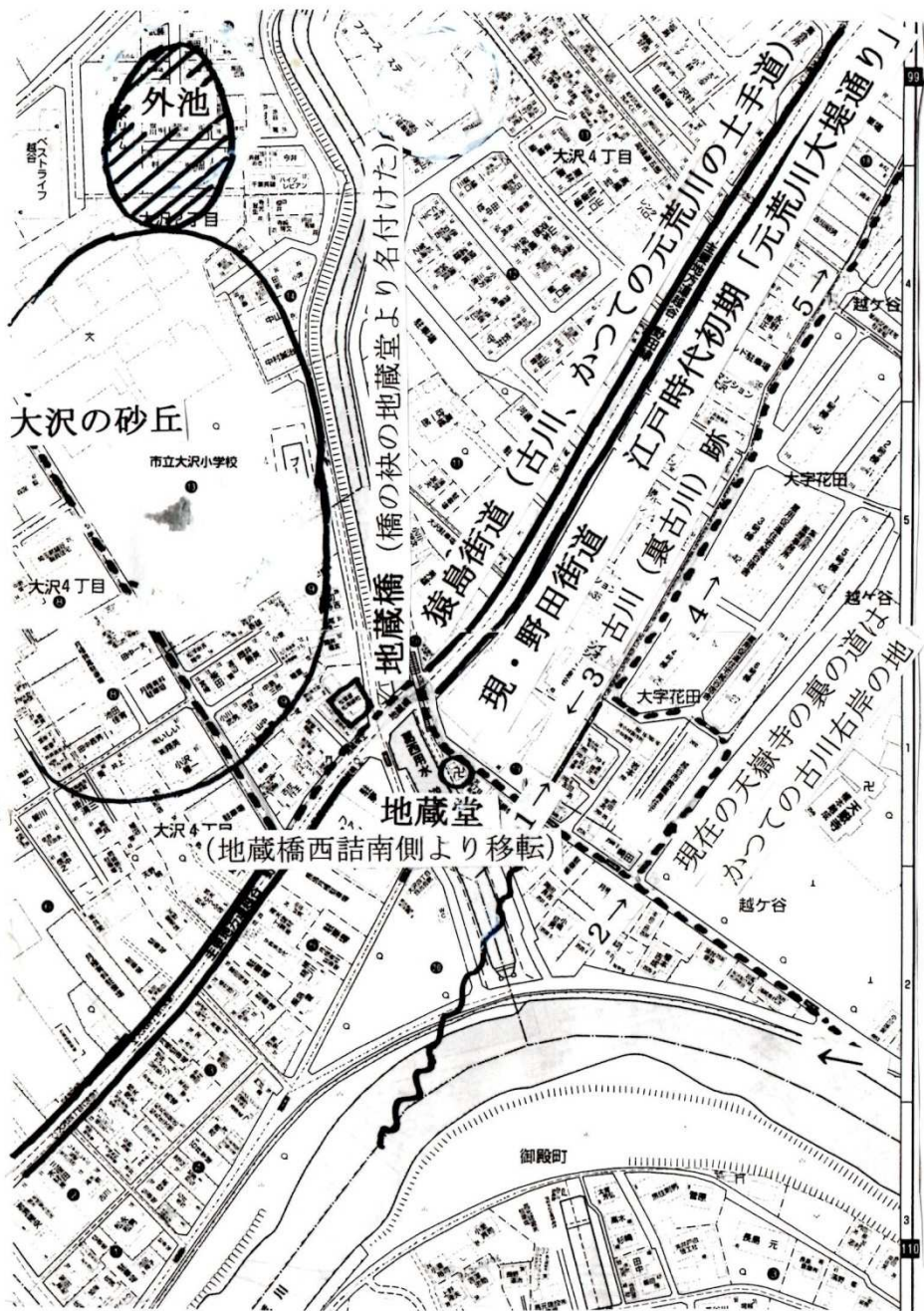
茶畑

しじみ池

元荒川が花田村の周りを天狗の鼻のように廻って流れていた。それが江戸時代初期に、元荒川の直道改修によって、今日のようになった。このかつての元荒川の流路をたどる。

元荒川の直道改修の時期  
越ヶ谷天嶽寺前の直道改修の時期は、荒川の熊谷の久下先の瀬替えや中島用水(現、鷲後用水・逆さ川)の開発と同一時期の寛永六年(一六二九)と推定されている。

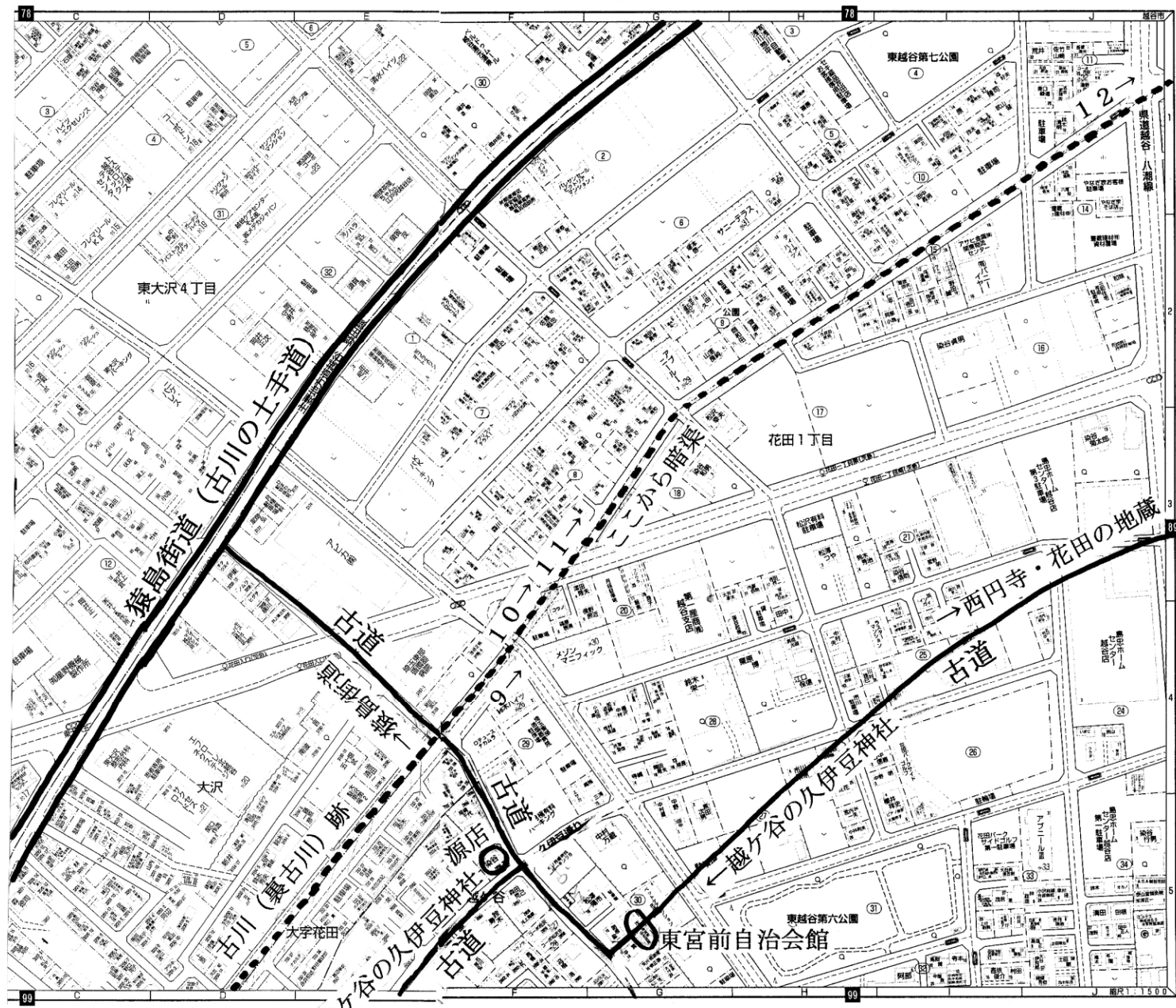




※数字は、写真の番号

※ ..... は古川の見学コース





花田の地名の由来・・・花田村の花田の地名の由来について、文化文政年間発行の

「越ヶ谷瓜の蔓」(福井猷貞著)によると、

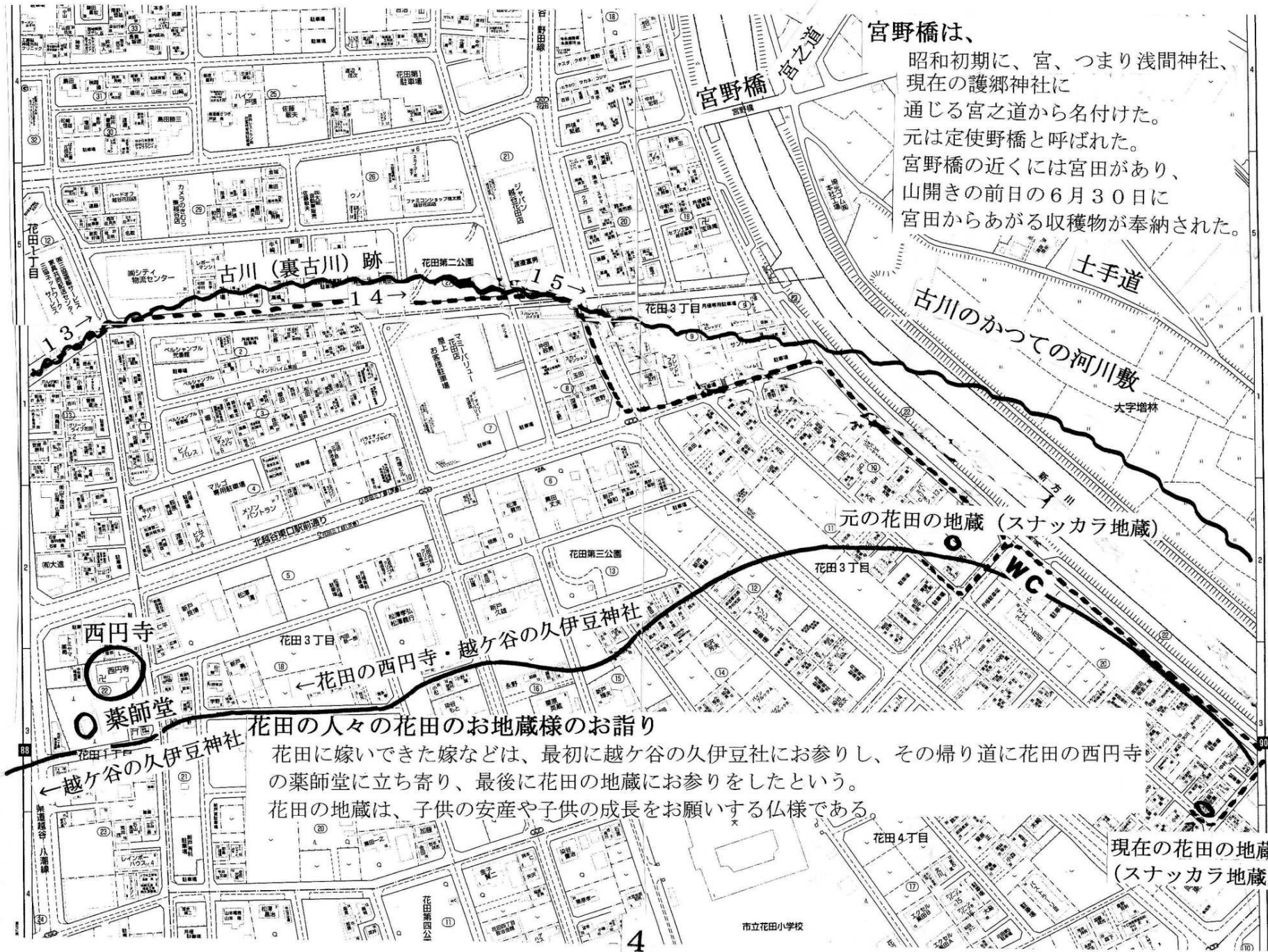
『花田は元荒川押廻(おしまわ)り、天狗の鼻の先の如き組ゆへ、鼻田と称するを花田と書替(かきかえ)』と記載されている。

花田の地名の由来は、花田の周りが元荒川の流れによって天狗の鼻のようであることからきているとしている。

しかし、私見ではあるが、花とは鼻ではなく端という意味と解釈して、「越ヶ谷の端(はし)にある田」という意味から名付けられたと考えるべきだと思う。

宮野橋は、

昭和初期に、宮、つまり浅間神社、現在の護郷神社に通じる宮之道から名付けた。元は定使野橋と呼ばれた。宮野橋の近くには宮田があり、山開きの前日の6月30日に宮田からあがる収穫物が奉納された。

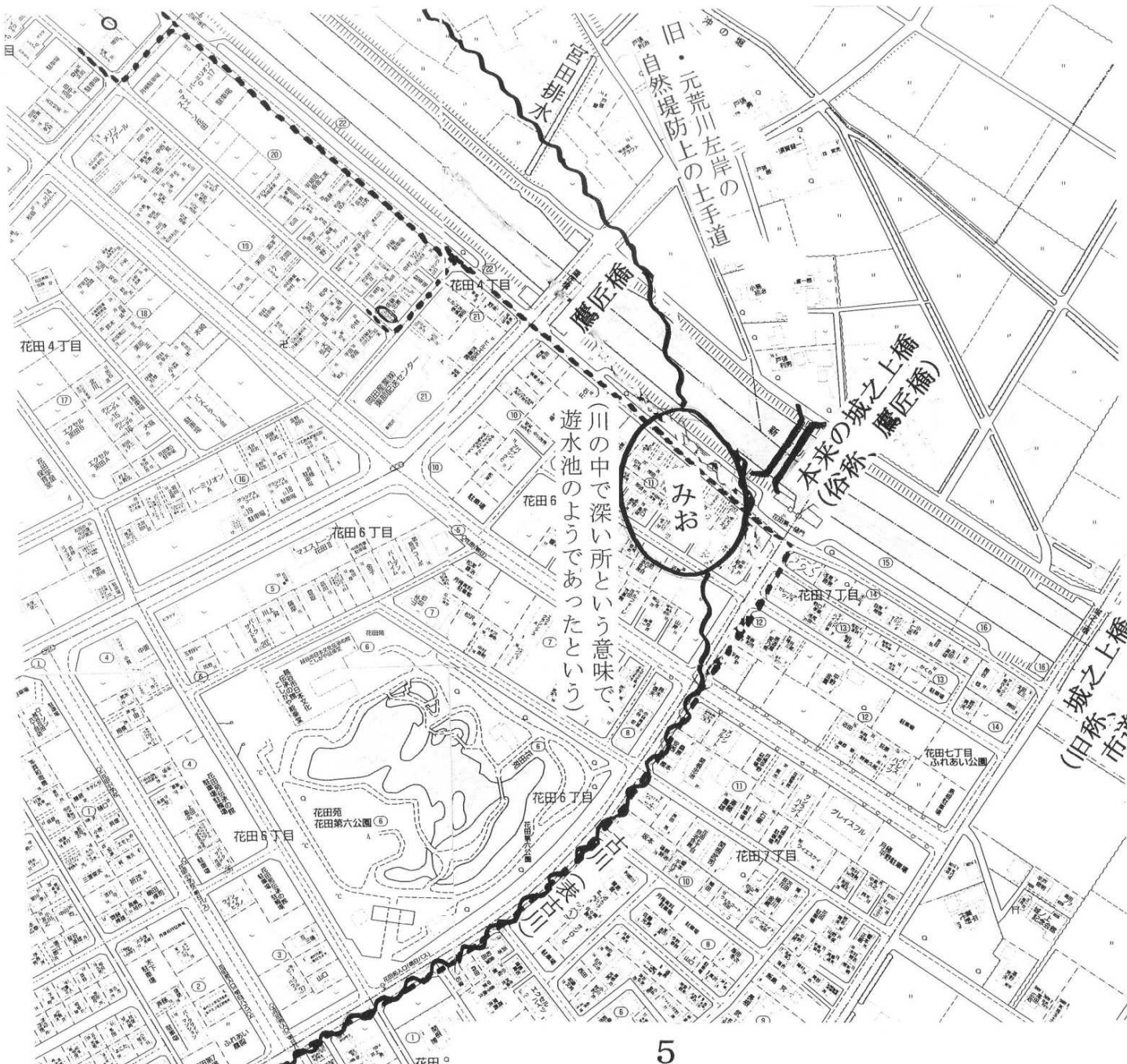


花田の人々の花田のお地蔵様のお詣り

花田に嫁いできた嫁などは、最初に越ヶ谷の久伊豆社にお参りし、その帰り道に花田の西円寺の薬師堂に立ち寄り、最後に花田の地蔵にお参りをしたという。花田の地蔵は、子供の安産や子供の成長をお願いする仏様である。

現在の花田の地蔵  
(スナッカラ地蔵)





現、鷹匠（たかじょう）橋

昭和5年に初めてここに架けられた橋。下流にあった鷹匠橋の名を採用した。鳴場の鷹匠が増林での鷹の訓練のために、よくこの橋を渡っていた。

本来の城之上橋

花田第一種門の北隣あたりに大人一人分が渡れる程の土橋であった。明治41年にできた大林の鳴場の鷹匠が鷹の訓練を増林でするために、よくこの橋を渡っていたので、俗称、鷹匠橋とも呼ばれた。

現、城之上橋

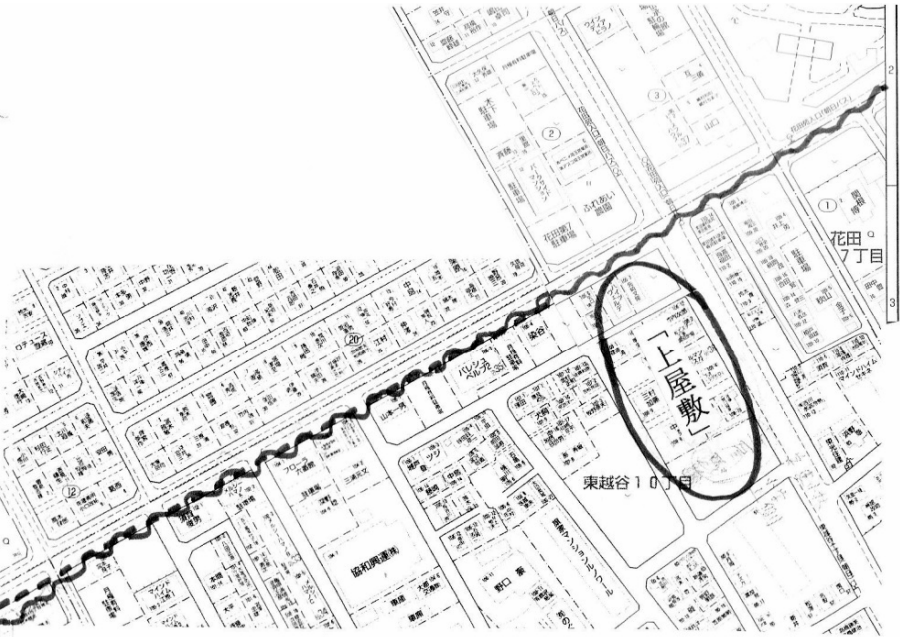
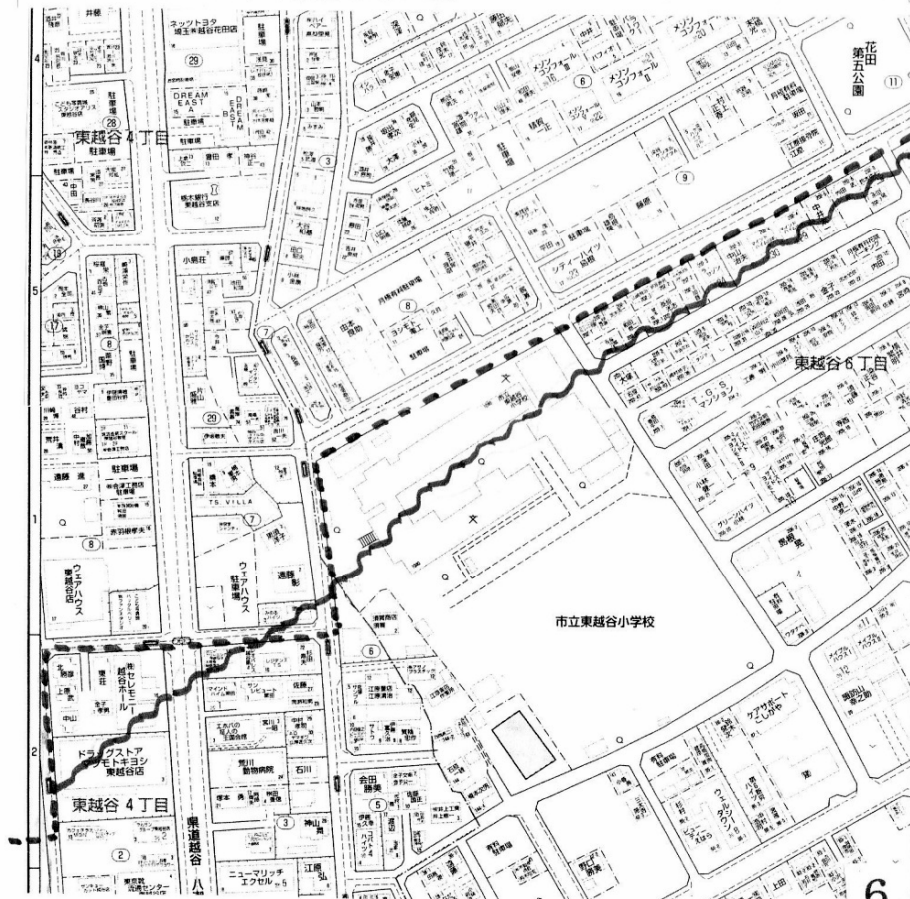
もとは市道（いちみち）橋と呼ばれていたが、昭和初期の架け替えの時に、上流にかつてあった城之上橋の名を採用して、城之上橋と改名した。

（川の中で深い所という意味で、遊水池のようであったという）

### 【上屋敷】

旧・小林村上側（かみかわ）に「上屋敷」と昔から呼ばれてきた謎の地がある。増林村城之上と小林村上側との境界付近の小林村側、現、東越谷10-108である。

野口豪氏（現、東越谷、旧・小林村上側）によると、小字の上側は上屋敷の側（そば）という意味ではないかと考え、小林村側ではあるが、江戸時代初期に城之上にあったとされる由緒ある「お茶屋御殿」と関係した後世の建物であったらと推定している。



### 【花田の地蔵、「スナッカラ地蔵」の由来】

江戸時代から、地元やその周辺で親しまれてきた「花田のお地蔵様」は、すぐ近くの人々の間では、スナッカラの地のそばにあったので「スナッカラのお地蔵様」と呼ばれることもあり、花田の区画整理事業が行われ始めた昭和五十一年（一九七六）頃より、「花田のお地蔵様」は、「スナッカラ地蔵」として紹介されるようになる。

「スナッカラ」とは、砂河原のことで、当時の「花田のお地蔵様」あたりから現在の鷹匠橋までの間の古川（昔の元荒川筋）の河原跡にみられる耕地をさした。一部で「スマッカラ」と表示されるが、それは誤りである。

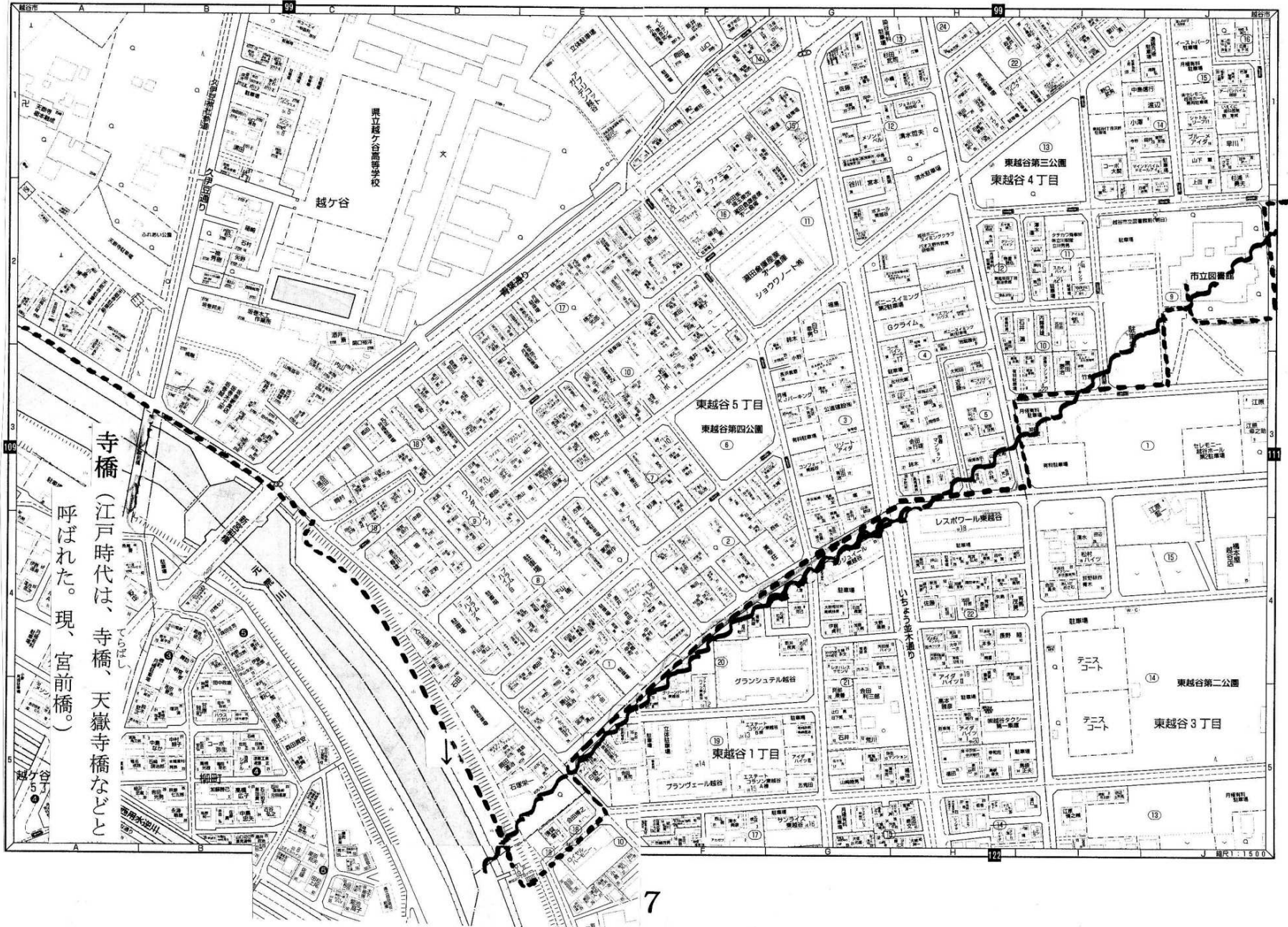
### 【花田の地蔵伝説】

昔、元荒川が花田の方に花田の地を囲むように迂回して流れていた頃の話である。ある日のこと、この曲流した花田の元荒川を石のお地蔵様を運んで上流へと上る舟があった。花田のあたりにさしかかると、急に舟が動かなくなる。そこで人々は運ばれていたこのお地蔵様がこの地に安住したいのだと思い、舟から降りし堤の上に上げてお祀りしたという。

### 【花田の地蔵のルーツ】

葛飾区の水元公園そばの正徳寺（現、南蔵院）がルーツである。江戸時代初期に、ここから古利根川と元荒川・古川を利用して運ばれてきたのである。詳細は、教育委員会発行の「川のあるまち」第29号を参照のこと。





寺橋 (江戸時代は、寺橋、天嶽寺橋などと呼ばれた。現、宮前橋。)

## 寺橋の由来

加藤 幸一

天嶽寺と久伊豆神社の前を流れる元荒川に、寺橋（現・宮前橋）があります。この橋は、昭和三十四年以前は木橋で、記録によると、文明十年（一四七八）に開基とされる天嶽寺が、河川改修で閉ざされていた町との通行をスムーズにするため、住職の発願により架けられた、とあります。江戸時代初期のことです。付近の方々には、子供のころから寺橋を渡って学校へ通い、買い物に墓参りにと生活に欠かせない橋です。

越谷音頭に「綾瀬、古利根、元荒川に 渡る寺橋、平和橋」とあるように、多くの越谷市民に親しまれている橋でもあります。寺橋が今では宮前橋と名称が変わりましたが、寺橋の由来を後世に残す一環として記念碑が建立されました。

### 「寺橋」由来の碑

元荒川の呼称は寛永六年（一六二九年）徳川幕府の治水対策で荒川本流の入間川筋（和田吉野川）への瀬替以後のことであり、かつては古荒川とも呼ばれた。

この瀬替による流量不足を補うため中島用水（現葛西用水）が開発されたと思われ、それともなつて、天嶽寺前を開削し流路とする河川改修がおこなわれた。この改修は越ヶ谷御殿地から花田村（現花田地区）を迂回して小林村（現東越谷地区）に至る彎曲した流れを直道に疎通させ、瓦曽根溜井までの通水の便を図ったものである。

文明十年（一四七八）開基とされる越ヶ谷天嶽寺前のこの河川改修に伴い、遮断された旧越ヶ谷町内との通行利便のため、天嶽寺第四世城誉上人（正親町『おおぎまち』天皇第三皇子）の発願により橋が架けられた。以後この橋を地元の人達は、親しみを込めて「寺橋」と呼び現在に至っている。

この「寺橋」付近は流れもおだやかで昭和初頭の頃から、地元青年団による子供達の水練場（水泳場）が開設され、大いに賑わい、越ヶ谷の夏の風物詩ともなっていたが、昭和三十四年にコンクリート製の橋に架け替わった頃より、地域開発に伴う環境の変化と併せて水質の悪化が著しく、時代の流れとともにその姿は消えた。

平成十五年十一月宮前橋（旧称寺橋）の新設竣工を機に元荒川の環境保全と「寺橋」の名の歴史的意義を顕彰し、この碑を建立する。

平成十八年九月吉日

「寺橋」由来の碑建立之会



# 「地蔵橋地蔵尊」のいわれ

※地蔵橋の西詰めにある屋号「松葉屋」と呼ばれてきた松沢家は、最近まで「因子屋」という愛称で親しまれてきたが、江戸時代は猿島街道（野田街道）に面したこの地で茶店を営んでいたと推定できる。この店に、地蔵橋地蔵尊のいわれが刻まれてた年代不詳の縦二九・五センチ、横七七・五センチの板が保管してある。以前はこの店の前に掲げられてきたという。

## 解説論文

## 大意

地蔵橋地蔵尊ハ きせるよりきせるに火をかして煙草を人にとらるるに似て 地蔵ありて橋あるに 地蔵をしらぬ者多し 今 誰いふともなく 古昔の由来ありとひとづてにはしの本の老人 所駅の長に問 主じのいはく 過つる古路ゆかしの末葉 石仏の下に宝物を埋め 憐なるかな 線香のくゆるがごとく 雲となく霞ともなく消うせたるとうけたまわると語りけるに 老人隠惻の心にもとづき 人の喜錢乞て あらたに美堂を建立す 是仏さへも時を得たるとや いはむ 増して土民の一心たらざりしがゆへに 利益に探あたらす 迷ひ疑ひ終にわが業をおろそかにす 既に浅草観世音は 隅田川に沈 網代守のために あかり広大に輝 大相模の

地蔵橋の地蔵様は、煙管から煙管に火を貸して、中の煙草を人にとられるのに似ている。それは、地蔵様があつて地蔵橋があるのに（橋の方は人々によく知られていても）地蔵様のことを知らない者が多い。今は、誰ともなく「古い昔の由来がある。」と言うだけである。橋のたもとに住む自分は、宿場の長老に尋ねてみた。長老が言うには、「昔、地蔵にゆかりのある子孫が石仏の下に宝物を埋めたとのことだが、あわれにも線香の煙がけぶるようなもので、雲か霞のように消え失せたと伝え聞いていた。」

この話を聞いて、自分は幾人かの人達に地蔵様のことを話し、寄進を願つて、新たにお堂を建てた。

仏も「やと供養してもらえぬ時期が来た。」と言ふでいることと申す。それと言ふのも、人々の信仰心が足りないばかりに、ご利益（りやく）にあやかれず、自ら迷ひ疑ひ、ついには生業さえおろそかにする。

昔、浅草の観音様は、隅田川に沈んでいたのが、漁師の網にかかつて世に出ることによって、今では有名になつてゐる。又、大相模の不動様は、行脚（あんぎゃ）僧の笈（きゅう）に背負われていたものが安置され、靈

不動尊ハ 六部の笈より出て その名ふくをあらわす 大石を穿 尊像となすとも、以是草木の紅葉 腸なく成すにひとし 通路の人々 数度に及て 合掌せば 地蔵萬代の慈眼を開き 疲瘵残疾の病を直し子孫長久 繁栄を祈たまわむや

(し) 志メ

両の手に よし

あしぞあり ことし成

壬寅神無月十六日

印 印

壬寅年（みずのえとらどし）の十月十六日

両方の手に、良いも悪いもある

今年こそ両手を合わせて祈らう

験（れいげん）あらたかなものとなつてゐる。大石を彫つて尊い仏像としても（信仰心が足りなければ）それだけでは草木が紅葉するような恵みはないのと同じである。この通り道の人達は、何べんとなく合掌しなさい。そうすれば、いつの時代も地蔵様が慈悲の心で私達を見てくださるし、病を治し、子孫の末永い繁栄を祈つてくださることだろう。

地蔵橋地蔵尊は、昔、地蔵にゆかりのある子孫が石仏の下に宝物を埋めたとのことだが、あわれにも線香の煙がけぶるようなもので、雲か霞のように消え失せたと伝え聞いていた。

この話を聞いて、自分は幾人かの人達に地蔵様のことを話し、寄進を願つて、新たにお堂を建てた。

仏も「やと供養してもらえぬ時期が来た。」と言ふでいることと申す。それと言ふのも、人々の信仰心が足りないばかりに、ご利益（りやく）にあやかれず、自ら迷ひ疑ひ、ついには生業さえおろそかにする。

昔、浅草の観音様は、隅田川に沈んでいたのが、漁師の網にかかつて世に出ることによって、今では有名になつてゐる。又、大相模の不動様は、行脚（あんぎゃ）僧の笈（きゅう）に背負われていたものが安置され、靈

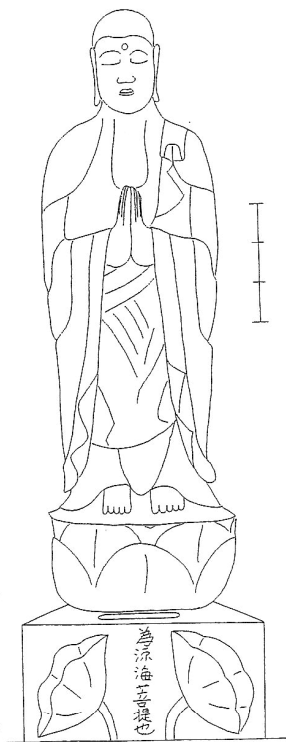
此の由ありては、世にても、人にも、  
 如く、佛の如く、多かる、信に  
 りて、老人、徳、慍、画、に、も、と、於、起、敷  
 人、色、を、錢、乞、ふ、事、も、あ、る、も、由、表、事、也、建  
 去、は、是、佛、を、も、時、代、目、も、と、也、  
 舞、壇、も、も、土、瓦、画、一、心、も、も、也、  
 由、一、に、利、益、也、探、も、も、也、  
 於、母、こ、う、業、也、也、也、に、既、に、佛、子  
 觀、世、音、支、偶、田、川、也、沈、潤、代、字、也  
 多、も、ん、ち、う、度、大、に、輝、大、相、摸、也  
 不、動、尊、の、部、也、及、も、も、也、  
 名、も、も、也、大、石、代、字、也、  
 形、も、も、也、也、也、也、也、也、  
 宋、以、母、也、一、道、路、也、人、也、  
 及、も、も、也、也、也、也、也、也、  
 眼、也、也、也、也、也、也、也、  
 孫、長、久、也、也、也、也、也、  
 為、能、也、也、也、也、也、  
 志、也、也、也、也、也、也、  
 承、応、神、年、月、十、六、日

上記の文や印章は、原文の文字をそのまま正確に書き写したものである。(加藤幸一)

17 花田

『スナツカラ地蔵』石仏

佐藤家「花田四一二〇一三」



為源海五菩提也

17 『スナツカラ地蔵』石仏 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)  
 所在地 花田・佐藤家 (花田四一二〇一三) 南側路傍  
 石塔型式 丸彫り型 (南西向き・高さは高)  
 年号 承応四年 (一六五五)  
 [左側面]

[台石左側面]  
 武州葛西領  
 東葛西之庄  
 上ノ割下小合  
 村

正徳寺  
 施主敬白

「台石正面」

為源海菩提也

[正面]  
 (地蔵菩薩立像)  
 [裏面]

承応四年  
 未乙  
 為源海三十三年菩提也  
 正月廿六日

※下小合(しもこあい)村は、小台溜(こあいだめ)そばの現在の東水元二丁目付近にあった。

※もとは古川(かつての元荒川筋)の自然堤防上の野道にあった。

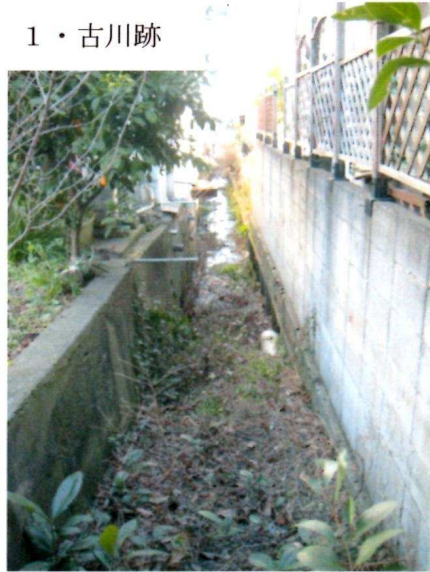
※この石仏に刻まれている銘文によると、源海という人物(僧侶であろう)の三十三回忌の菩提を弔うために、江戸時代の初め頃に造立したものである。面長の地蔵菩薩像である。



元荒川上流



1・古川跡



3



2. 天嶽寺裏



4



5



6



7



8



古道、源店（げんみせ）方面





古道、東宮前自治会館



古道、猿島街道方面



9



10



11



12



13



14



15





スナッカラ地蔵がかつてあった場所



スナッカラ地蔵とかつての土手道（秦野秀明氏提供）  
裏は古川の河川敷「砂河原（すなっから）」



移転前 1985 のスナッカラ地蔵（秦野秀明氏提供）  
向かって右隅は花田第二樋門



移転後の現・スナッカラ地蔵



旧・城之上橋（俗称、鷹匠橋）跡地  
現、花田第一樋門の北側にあった



元荒川下流  
向かって左端は東越谷一丁目ゲート